

第 34 回 放送番組審議会 議事録

令和 4 年 7 月 29 日 (金)
株式会社有明ねっこむ

■第34回 放送番組審議会

1. 開催日時 令和4年7月29日(金)16時～
2. 開催場所 株式会社有明ねっこむ 1階会議室
3. 出席者 委員長：石丸 智士
副委員長：香山 真理子
委員：城戸 久信、松崎 義和、大石 教義
(計5名)
放送局側：代表取締役専務 納富 和由紀、局長 永江 美穂(事務局)、原 沙也加(議事録作成者)
(計3名)
4. 議題 審議番組：大蛇山特番『おうちで大蛇山』
・7月23日(土)19時～21時放送分
・パーソナリティ/アッキー(中継)、Kyoko(スタジオ)
5. 議事の内容
 - 議事に先立ち、放送に関する報告として、前回の放送番組審議会から本日まで訂正・取り消しの放送、また放送内容に対する苦情・意見がなかった事を報告。
 - その後、議題の番組について放送局側から概要を説明した。
【放送局】3年ぶりの開催となった第60回大蛇山まつりの様子を現場からの中継をメインに放送。今回は例年の「楽しく賑やかに」ではなく「感動と感激」をコンセプトに、過度な演出や企画はせず、ラジオの声に地元のまつりを懐かしみ、じっくりと味わってもらふ番組とした。
会場定点メインマイク、山車を追うサブマイク、スタジオマイク、BGM等補助音源の以上4つのラインを使い、電波混雑による会場音の途切れなど音の状態を見ながら、ラインの入れ替えで良好な音声になるよう調整しつつ放送した。

- 実際の音源を聴き、以下のとおり、各委員からの審議番組に関する意見と放送局側からの発言があった。

【委員】 祭りの臨場感が伝わってきて良かった。悪いところはなかったように思う。

【放送局】 特に番組の最初と最後のところで、会場側の電波状況が不安定となり、会場の二つのマイクからの音声途切れの場面が続いて音声に聴き苦しい部分があった。

【委員】 アッキーさんのしゃべりが上手で、臨場感あふれる放送だった。ラジオからお祭り会場の様子を想像することができた。

【委員】 音声は、特になんら不都合なく聴くことができていたと思うし、会場の雰囲気が十分に伝わってきた。音声のトラブルとは、どんな感じの放送だったのか。

【放送局】 会場の中でも観客が多い場所では電波状況が悪くなる。会場のどちらかのマイクの音声途切れが出たときはもう一方の音を採用し、さらにどちらも厳しくなった場合はスタジオからナレーションや事前収録音源やBGMの歌をはさむなど、ディレクターが判断して切り替えていたが、それがなかなかスムーズに行かない場面では聞き苦しい音声となってしまった。

【委員】 『声』という観点から番組を聴いていたが、もう少しパーソナリティ自身から自然に出てくる祭りへの感情を出しても良かったのではないかと思う。コンセプトに縛られ過ぎたのではないか。

【放送局】 確かに、今回は企画段階から放送のイメージとして「淡々と」を目指していたため、そこにこだわりすぎたしゃべりだったかもしれない。次回は、感情表現も組み入れて放送を企画したいと思う。

【 委 員 】 放送をリアルタイムに聴いていたが、音声途切れた時は自分の電波が悪いのかと思っていた。

自分も、放送が淡々と進められている感じを受けていたが、今日、番組のコンセプトを聞いて、敢えてそういう進行の仕方だったことを理解した。

【 委 員 】 今回、2日間の祭りのうち初日の中継だったが、これを2日間とも放送はできないのか。

【 放 送 局 】 この番組は、地域振興のため取り組んでいる自社制作番組で、スポンサーをつけず放送している。今後、スポンサーを付ける方向となれば、2日間の放送も検討するかもしれない。

6. 次回の会議 令和4年9月（日時は未定）

7. 審議機関の答申又は意見の概要公表

自社ホームページに掲載（令和4年8月31日掲載）